

再評価チェックリスト

1 事業概要

事業の名称	東京都計画道路補助第54号線	評価該当要件	5年間継続	3回目
実施主体	東京都(建設局)	事業所管部署	道路建設部街路課	
都市計画決定(当初)	昭和21年度	事業認可年度(当初)	平成15年度 事業期間: H15年度~H22年度	
都市計画決定(最新)	昭和21年度	事業認可年度(最新)	平成30年度 事業期間: H15年度~R4年度	
事業箇所	世田谷区千歳台六丁目から同区上祖師谷四丁目 事業規模 評価対象区間延長 680m			
事業概要	補助第54号線は渋谷区富ヶ谷二丁目を起点とし、世田谷区上祖師谷五丁目を終点とする延長約9km、標準幅員15mの都市計画道路であり、区部と多摩を結び甲州街道を補完する重要な路線である。 本事業はこのうち、世田谷区千歳台六丁目から同区上祖師谷四丁目までの延長680mの区間について道路を新設するものである。 本路線に並行する現道は歩道のない幅員約5m道路であるが、多くの車両が通行しており、歩行者は危険な状態である。そのため、交通渋滞の緩和、災害時の延焼遮断帯としての防災性の向上、歩行者の安全で快適な歩行空間の確保等を目的に整備を進めている。			

2 社会経済情勢等の変化(事業の必要性等に関する視点)

社会経済情勢等の変化 (認可時点から変化がある場合は変化・変更内容欄に記載)
(社会経済情勢の変化) 本路線周辺の平成27年度の現況交通量は、平成22年度と比較して、約937台/12h減少している。 ○現況自動車交通量(道路交通センサスによる) 【一般都道調布経堂停車場線(都道118号)】 平成22年度: 5,585台/12h 平成27年度: 4,648台/12h
(関連する他事業等の進捗状況の変化) 【補助第54号線(上祖師谷II期)】 ・事業未着手(R5年度事業認可取得予定)
【調布3・4・10(若葉町二丁目)】 ・事業未着手(R5年度事業認可取得予定)
【調布3・4・17(若葉町)】 ・平成9年度に事業着手しており、用地取得は98%で工事は実施中。

3 事業の投資効果(事業の必要性等に関する視点)

定量的効果 B/C	2.3	(前回評価時: 2.5)
現在価値化総便益額(B)	235.0億円	現在価値化総費用額 103.5億円
走行時間短縮便益	216.6億円	工事費 25.3億円
走行経費減少便益	17.3億円	用地費 75.8億円
交通事故減少便益	1.1億円	維持管理費 2.4億円
定性的効果	<<らし>> ・公共施設へのアクセス向上 <安全> ・交通事故の減少 ・バリアフリー化 ・自転車や歩行者のための空間確保 <交通> ・交通渋滞の解消 ・物資流動円滑化への寄与 ・バスの定時性 ・迂回交通の減少 <景観> ・都市景観の向上 <防災> ・緊急車両の走行 ・延焼遮断 ・災害時の避難路の確保	

4 事業の進捗状況(事業の必要性等に関する視点)

事業費の執行状況 (R3年度末時点)			
	用地費	工事費	合計
全体事業費	5,610百万円	1,959百万円	7,600百万円
執行済額	5,569百万円	1,099百万円	6,668百万円
(執行率)	99.3%	56.1%	87.7%

用地取得状況 (R3年度末時点)		
取得予定面積(A)	既取得面積(B)	用地取得率(B/A)
8,195㎡	8,194㎡	99.9%

一定期間を要した背景、地元の理解・協力の状況

- ・本事業区間の中に位置する大学の野球場用地の再建計画の調整に時間を要した。
- ・起伏の大きい地形のため、道路と沿道に高低差が生じ、擁壁設置や区道の勾配の変更等について地元の理解を得るのに時間を要した。

事業の進捗状況・残事業の内容

- ・用地は99.9%取得済みであり、残る未取得用地についても早期取得を目指し、折衝を進めていく。
- ・関係機関との協議状況を踏まえて、順次工事を実施していく。

5 事業の進捗の見込みの視点

事業の実施のめど、進捗の見通し等

- ・関係機関との協議状況を踏まえて、順次工事を実施していく。
- (排水管工事、企業者工事、橋梁設置工事、電線共同溝工事、街路築造工事等)

6 コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

コスト縮減や代替案立案等の可能性
(新工法の採用など)(事業手法、施設規模等の見直しの可能性) ・複交差点から都道118号線との交差点までを先行して交通開放できるよう、事業効果の早期発現に向けた取り組みを行っている。 ・そのほか、一般的な街路築造工事部においては、施工にあたって新工法、事業手法、施設規模等の見直しの可能性は極めて少ない。
その他、日々の事業執行におけるコスト縮減等の取組み ・施工にあたっては、建設発生土の再利用や再生材の使用を行っている。 ・無電柱化にあたっては、東京都無電柱化計画(R3.6改定)を踏まえ、新材料等を積極的に活用し、コスト縮減に取り組む。

7 対応方針(原案)

総合評価	(事業の必要性等に関する視点) ・区部と多摩地域を結ぶ道路ネットワークが強化され、交通の円滑化が図られる。 ・歩道が整備されることにより、歩行者や自転車の通行の安全性が向上する。 ・バスのルートが転換されることにより、バスの定時性が確保される。 (事業の進捗の見込みの視点) ・用地は99.9%取得済みであり、残る未取得用地についても早期取得を目指し、折衝を進めていく。 ・関係機関との協議状況を踏まえて、順次工事を実施していく。 ・補助第54号線は、周辺地域の交通渋滞緩和、災害時の避難路としての機能、快適で安全な歩行空間、良好な都市景観の創出の観点から、事業の必要性が高く、早期の効果発現を図ることが適切である。 ・中止の場合は、事業効果を発現できないだけでなく、これまでの投資に見合った整備効果も得られなくなる。
対応方針(原案)	継続